

親鸞聖人 御絵伝

第一軸



第五図

第四図

第三図

第二図

第一図

親鸞聖人のひ孫である覚如上人(かくによしょうにん)が、親鸞聖人の遺徳を讃える気持ちをあらたに『親鸞伝絵(しんらんでんね)』をご制作になりました。『親鸞伝絵』とは、親鸞聖人の伝記絵という意味で、詞書(ことばがき)と絵とを交互に連ねた絵巻物です。浄土真宗では、詞書きの部分だけを『御伝鈔(ごでんしょう)』(上巻・八段、下巻・七段)といい、絵の部分だけを縦型四幅の掛軸にして『御絵伝(ごえでん)』といっています。

第五図 「蓮位夢想」(れんにむそう)

京都五条西洞院の草庵で、下間(しもつま)の蓮位房が不思議な夢想を感得している情景を描いたものです。

第四図 「六角夢想」(ろっかくむそう)

建仁三年(1203)4月5日の夜中の三時(寅の時)岡崎の草庵で臥せている親鸞聖人の夢の中に現れた六角堂救世観音菩薩のお告げがあった情景です。

第三図 「吉水入室」(よしみずにゅうしつ)

親鸞聖人(白衣姿)29歳の春、建仁元年(1201)3月15日、吉水の禅房に法然上人(黒衣姿)を訪ねられたところが描かれています。

第二図 「出家学道」(しゅっけがくどう)

青蓮院の客殿で、伯父の日野範綱とともに慈鎮和尚と対面しているところ(左半分) 得度されているところ(右半分)が描かれています。

得度：頭髪を剃り僧侶になること

第一図 「出家学道」(しゅっけがくどう)

親鸞聖人(幼名：若松丸)が9歳の春、伯父の日野範綱(のりつな)につれられて出家得度のため京都・粟田口の青蓮院(しょうれんいん)へ慈鎮(じちん)和尚を訪ねられたところが描かれています。